

1. 調査報告概要表

作成日 2007年11月26日

[評価実施概要]

事業所番号	(※評価機関で記入) 3470105184
法人名	社会福祉法人 広島光明学園
事業所名	グループホーム 光明 早稲田
所在地	広島市東区牛田早稲田2丁目4番15号 (電 話) 082-222-1005
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田
訪問調査日	平成 19年 11月 22日

[情報提供票より] 19年8月30日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16人
利用定員数計	18 人
常勤	16 人, 非常勤 0 人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	150,000	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1500 円		

(4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新田内科医院
---------	--------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

グループホーム光明早稲田は介護に対して深い思いを持った若いホーム長を中心に「笑顔で全員で支援する」という姿勢で保たれているホームです。前年12月までは現建物上部に位置する1ユニットの施設を現在の新築ビルに移動させ2ユニットに増設されて運営が開始されたものです。新施設は南向きのベランダに面し採光も良く、グループホームに必要な条件の安全、安心を基に、入居者のプライバシーが確保されている居室設備と介護職員の見守りが行き届く工夫も取り入れられている、明るい施設です。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回よりの重点目標であった地域との交流について「グループホームに遊びにきて下さい」と書かれたチラシを作って町内会の回覧に加えてもらう等して近隣との交流を前向きに取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 新しい建物に移転し2ユニットに増設されたことで、地域密着の可能性を広げる好機会と捕らえられ、地域との交流の方法を多機にわたって研さんされている。例として法人が行っている地域へのボランティアバス(黄色バス)の利用の案内など。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の議題が大部分は現状報告になっているが、出席者は世間話などで親密度を増されて来られており、サービスの向上につながる話題作りにも取り組まれている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者個別に日中、夜間、入浴、排泄、歩行等、細部にわたって家族に月別に報告が行われているので、家族より信頼と好評を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し町内の清掃に出席したり、近隣の氏神様のお祭りや町内のイベントに参加しているが、地域の人々が立ち寄られる回数は未だ未だ少ないので、より多くの働きかけが望まれる。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族的雰囲気、地域と交流を、明るい笑顔、という理念は各フロアーの目に留め易い場所に掲示されて、朝礼時等で職員全員で唱和され共有されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長や各職員の日常の業務態度の明るさや声掛け等は理念に沿っているものと伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から町内会に入会している。「グループホーム光明早稲田に遊びにきて下さい」というチラシを作って町内会に回覧をしてもらい取り組みをしている。町内会長は度々ホームに立ち寄られ、庭の手入れなどの意見も下さる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域の行事に積極的に参加することに勤められ、開設1年目での前回の評価の不十分であった、地域との交流の充実を管理者職員一体で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議題が現況報告に重点が置かれている。会議への参加者は積極的に参加して下さるので色々な話題で盛り上がる事もある。	○	日常の支援に携わっている職員間での意見等を持ち寄り、運営推進会議での議題に載せサービス向上への意見をくみ上げることも一策と考えられる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公民館活動に参加され認知症に対する啓蒙活動をされ、又町内会に参加しお祭りやイベントに職員同伴で参加され、利用者は大変喜ばれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月毎に利用者個別に[日中、夜間、入浴、排泄、歩行、備考]の項目ごとに細部にわたって報告が行われている。		特記 個別介護計画実行表に基づいた報告書は生活状況の確実な伝達となって、家族よりの安心感を得ていることを特記したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月別の状況報告書を送付した後、それに基に電話などで質問を受け家族の意見を以後の介護に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間で利用者間の交流を時々持ち、職員はローテーションで両ユニットの配置についているので職員の移動によるダメージは現況では皆無である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回法人内研修が行われ、勤務時間をはずした時間帯で参加が義務づけられている。勤務時間内でも互いに仕事内容の確認をしつつサービス向上の意見が言い合える雰囲気がもたれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホーム及び多機能施設間の相互訪問を度々行い、職員間の交流は常時行われ情報の交換を行ってサービス向上に努めている。	○	近隣の他法人施設との交流なども後々期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は利用者の家族関係や生活歴などを共有して理解し、全員が穏かな雰囲気づくりをしてひとり一人に声掛けがされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意とする作業内容を職員は把握して片付けなどを共に行う。若い職員は昔話などを傾聴して楽しみの時間を共に持っている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出での買い物や外食を出来るだけ希望に沿うよう努めている。殆んどの利用者は外出を大変喜ばれる。出費が必要な時は家族に相談して実行している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常業務の中に支援専門員である看護師も加わって、常に利用者の状態の把握が出来ている。介護計画実行表をもとに個人個人に最も良い介護計画の作成に努力されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護計画実行表や申し送りノートから汲み取れる変化を確実に現行に即した新たな計画作成をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の介護施設が多機にわたって運営されているので、利用者や家族の要望に柔軟に的確に応じられ支援できる。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者本人了解を得て殆ど利用者は掛かりつけ医を近隣の内科に定め、行き届いた支援が行われている。例 予防接種はホームに往診され行われる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に本人や家族の意向を話し合い、体調の変化に従って再度話し合いを行い看取り介護に移ることにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個室内に洗面所及びトイレが設備されプライバシーが十分に確保されている。個室内での行動の安全な見守りに細心の配慮を行っている職員より説明がされた。声掛けは常に丁寧さ優しさが込められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者に強要する場面は無く穏かな声掛けで移動の支援がされていた。特にホーム長の声掛けは他の職員の範となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者の管理栄養士の作成したメニューにより納入されるが、利用者の好みで変更する事もある。食事の準備や片付けは利用者の力量で手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	常時入浴が出来る設備の状態は出来ているが、職員の支援できる時間に合わせた中での希望入浴になってしまふ。他の施設よりの入居者は昼間に入浴する習慣をつけられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩やドライブ等外出を利用者の殆んどの方は大変好まれるので、機会を作って支援している。法人内の保育園を訪問し幼児に合うことを楽しみにされる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内の他のグループホームの畑の芋掘りに参加したり、カラオケを他の施設と合同で行ったりすることを大変喜ばれる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は施設は理解しているが、居室には鍵をかけないケアを実施している。但し団地内に位置し防犯上家族の要望もあり玄関に施錠をしているため、随時希望される利用者には散歩等の外出の機会を設けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練をホーム独自で1ヶ月に1回、時間帯の設定に変化をさ誘導の手順を考慮しつつ行っている。年2回は消防署の参加を得て行っている。ホーム建物の続きが法人の職員寮となっているため、緊急時の対応に強力な体制がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別介護実行表で十分な管理が行なわれ、その結果は次の日の対応に送りノートで共有して、個別支援がされる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに面した居室は開放的なドアで仕切られ、リビングにはゆったりしたソファが置かれ寛ぎの場が作られている。利用者は時折ソファに座して職員や親しい仲間と会話をもたれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室南向きで日当たりがよく明るい。ベッドは施設で設備され、椅子や家具は使い慣れた私物が持ち込まれ、本人の好みの飾り付けがされている部屋もある。		